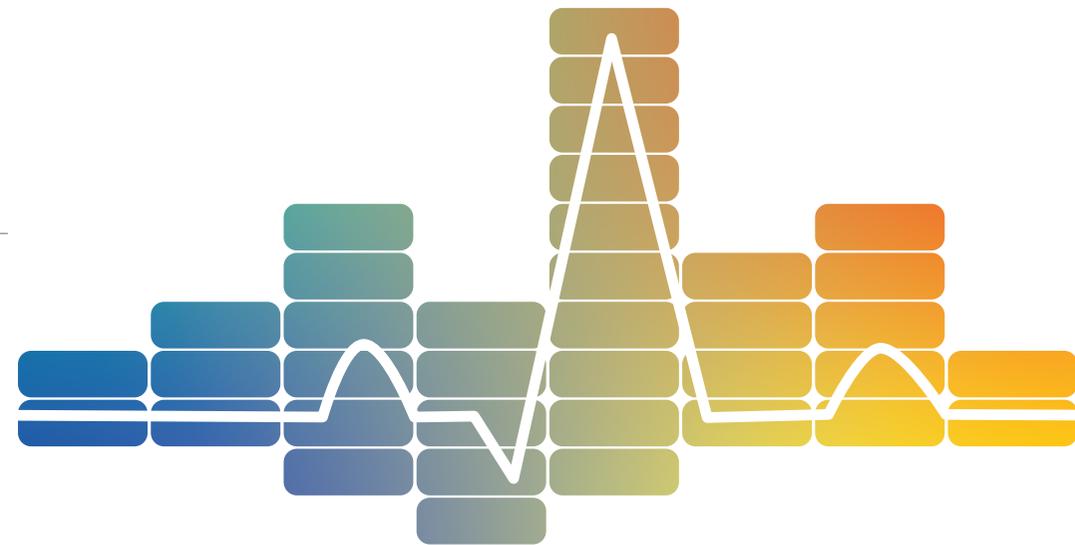


長時間心電図検査を受診されるみなさまへ



施設名／連絡先

## 長時間心電図検査でわかること

通常、心臓は一定のリズムで拍動し、血液を体中に循環させています。ところが、心臓に異常があると心拍が突然速くなったり遅くなったり、不規則になったりします。この状態を<sup>ふせいみやく</sup>不整脈といいます。



不整脈にはさまざまな種類がありますが、その一種である<sup>しんぼうさいどう</sup>心房細動は、心房と呼ばれる心臓の一部が小刻みに震える

現象です。動悸やめまい、脱力感、息苦しさなどの症状が現れるほか、血の塊（<sup>けっせん</sup>血栓）を作り出して血流を遮ることがあります。血栓が脳の血管まで移動すると<sup>のうこうそく</sup>脳梗塞を引き起こします。



心房細動を見つけるには、心臓が発する微弱な電気信号を調べる**心電図検査**を実施しますが、心房細動は必ずしも検査時に心房細動が起きるとは限らないため、長時間の心電図検査が必要になります。

**パッチ型心電計**は、直接身体に張り付けるタイプの心電計です。薄くて軽く、装着したままほぼ普段通りの生活を送ることができるので、長時間心電図検査に適しています。一方、長時間の計測はデータの量も膨大で、その中から人の目で心房細動を見つけ出すことは大変であるため、人に代わって**AI（人工知能）**を用いて心房細動を検出する機器が活用されています。



心電波形の例



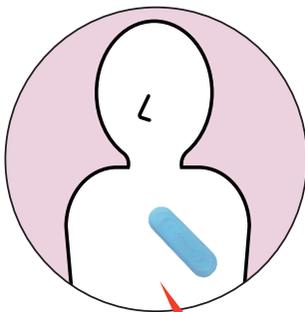
AI 医療機器による検査は、**かかりつけの医療施設**でも行うことができます。

## 検査の流れ

パッチ型心電計を用いた長時間心電図検査の装着から診断までの流れを紹介します。

### 装着・計測開始

医療施設内で看護師あるいは技師が、パッチ型長時間心電計を所定の位置に貼り付けます。



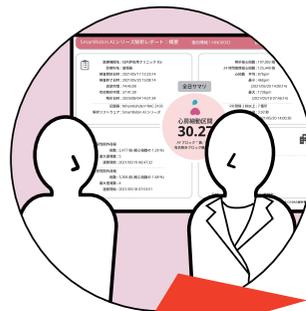
### 装着中・計測中

装着後は、普段通りに生活していただいても構いません。シャワーや半身浴も可能です。



### 診断

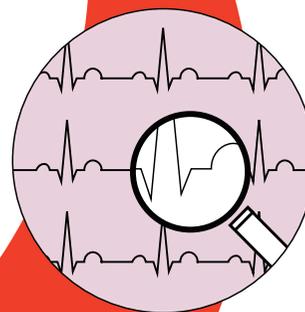
解析結果をもとに、医師が診断します。



心電図解析画面

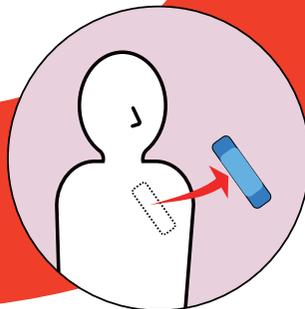
### 解析

計測した心電図データをAIが解析、心房細動を検知します。

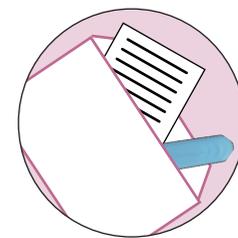


### 取り外し

医師が指定した測定期間を過ぎたら、医療施設内で心電計を取り外します。



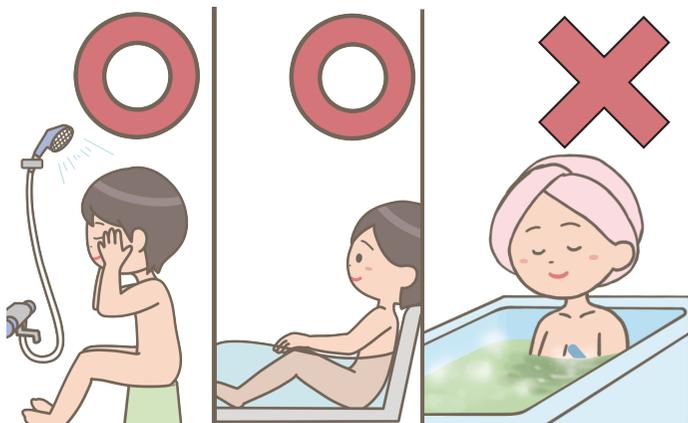
パッチ型心電計は、医師から指示があればご自身で取り外すこともできます。ご自分で取り外した心電計を郵送すれば、通院回数を減らすことができます。



## パッチ型心電計のご利用にあたって

パッチ型心電計は、装着したままでも日常生活を送ることができますが、いくつかの注意点があります。

- 心電計を貼り付けた箇所が痒くなったり、かぶれ・ほっしん発疹などが出る可能性があります。
- シャワーや半身浴はできますが、全身浴やプールの利用は避けてください。
- サウナの利用や激しい運動は避けてください。



- 心電計は直接肌に貼り付けるため、貼り付け位置の体毛は、あらかじめ処理しておくことをお勧めします。

- 何らかの理由で心電計が外れてしまった場合には、貼り直さずに計測を終了してください。
- 心電計装着中は、X線、MRI、CTなどの検査を受けることはできません。検査を受ける場合には、医師に相談してください。
- ペースメーカーをご利用の場合には、医師に相談してください。



その他、気になることがあれば、担当医や看護師に相談してください。